

1. 調査概要

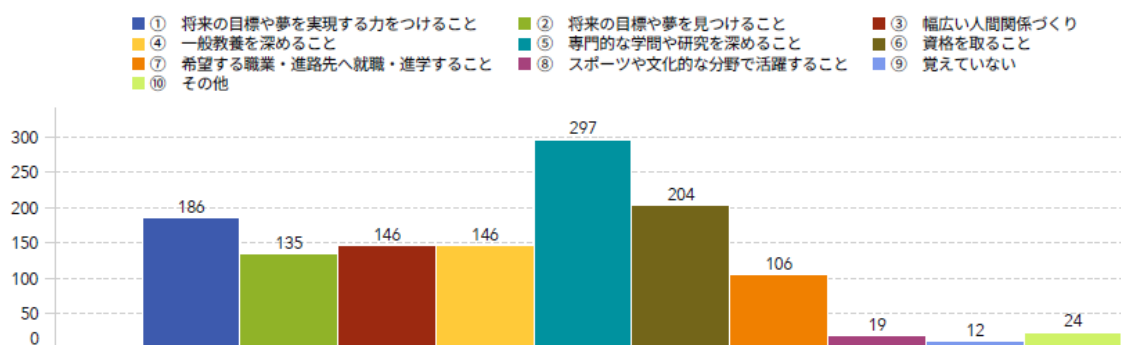
- (1) 調査実施時期:2022 年 3 月 30 日(鴨台会報発送開始日)～4 月 21 日
- (2) 調査方法:鴨台会報に、調査依頼書及び調査票を同封し、FAX、あるいは、調査 web サイトから回答を求めた。
- (3) 調査対象:鴨台会入会者で住所が分かっている者(本学のほぼ全卒業生。一部本人希望による送付差止あり)。
配付数は約 29,000 件(1 件に複数の卒業生が同居しているものも 1 件とカウント)。

2. 調査結果

- (1) 回答数:499 件(配付数分母とした回答率は 1.7%)。2021 年度に実施した 4 年度のみを対象とした卒業生調査の回答率は 14.9%であったため、他の送付物に埋もれ、調査依頼書が気付かれなかった可能性が高い。
- (2) 回答者の概況:男性 252 名、女性 201 名、不明 46 名。平均年齢は 45.7 歳。
- (3) 結果概要:

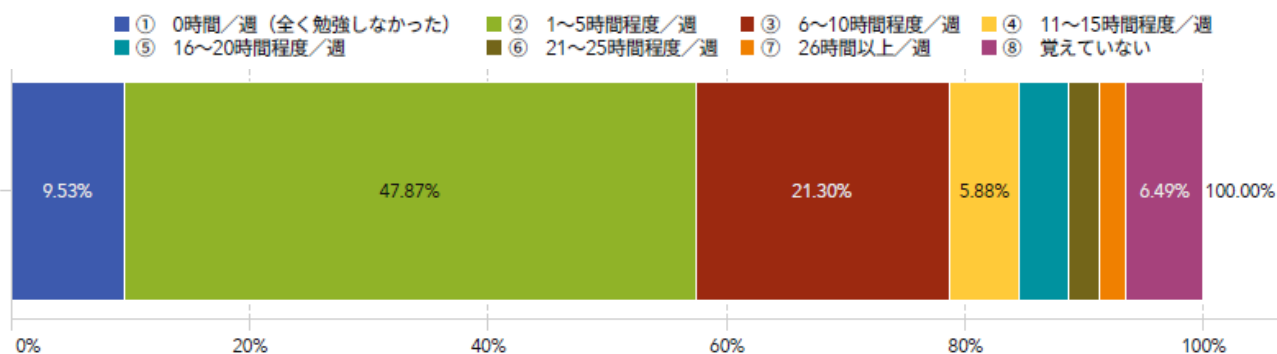
① 本学入学時の期待

最も多いのは「専門的な学問や研究を深める」であり、次に「資格を得る」、「将来の目標や夢を実現する力をつける」、「幅広い人間関係づくり」、「一般教養を深める」と続いている。



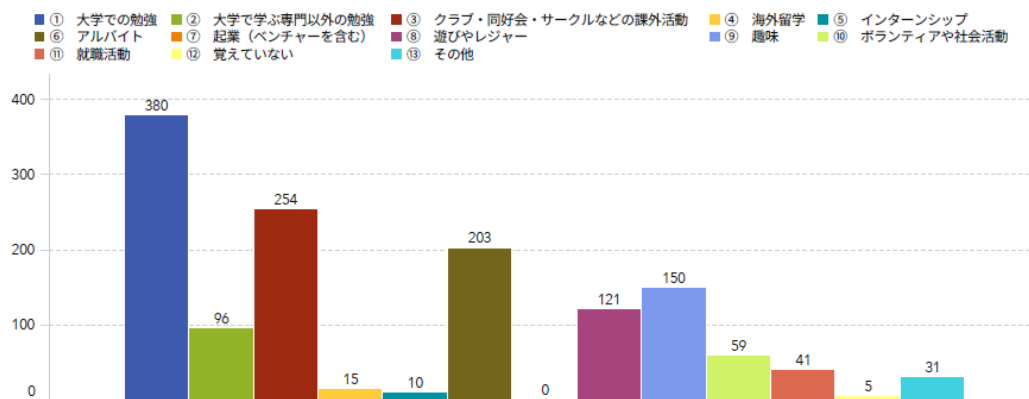
② 授業外の授業に関する学修時間(1 週間あたり平均時間、試験期間除く)

最も多いのは「1～5 時間程度」(47.9%)、次に、「6～10 時間程度」(21.3%)、「0 時間」(9.5%)の順である。11 時間以上の回答の合計は、全体の約 5 分の 1 であった。

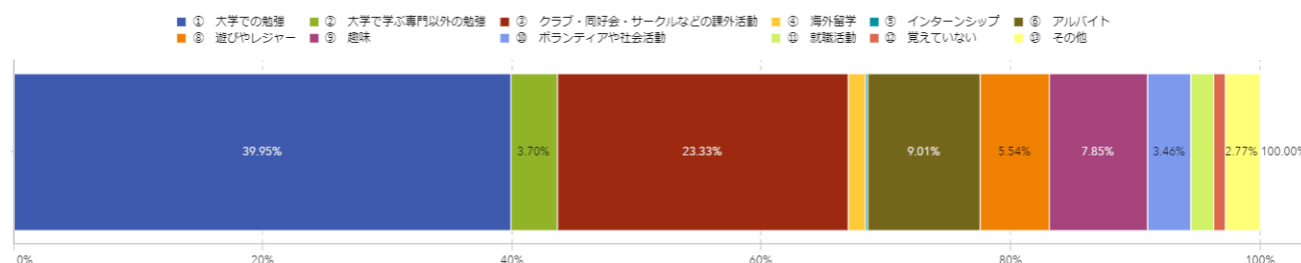


③ 大学時代力を入れた活動(複数回答)と、その中で最も力を入れた活動

最も多いのは「大学での勉強」であり、次に、「課外活動」、「アルバイト」、「趣味」、「遊びやレジャー」と続く。

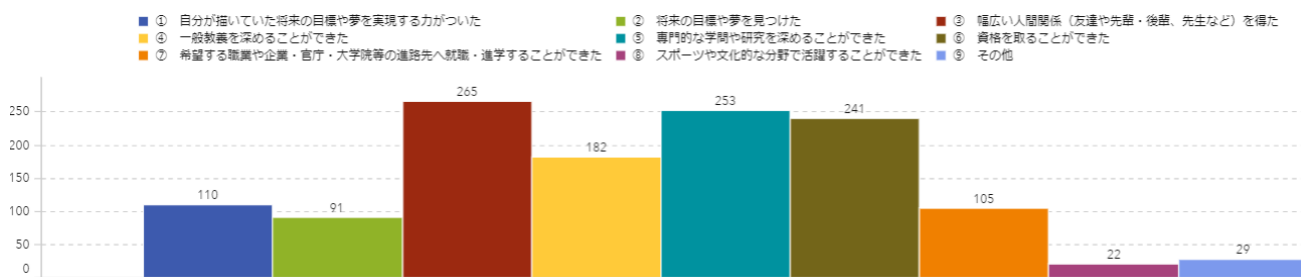


また、その中で、最も力を入れたものを聞いた結果では、「大学での勉強」(40.0%)であり、次に、「課外活動」(23.3%)、「アルバイト」(9.0%)、「趣味」(7.9%)、「遊びやレジャー」(5.5%)と続いている。

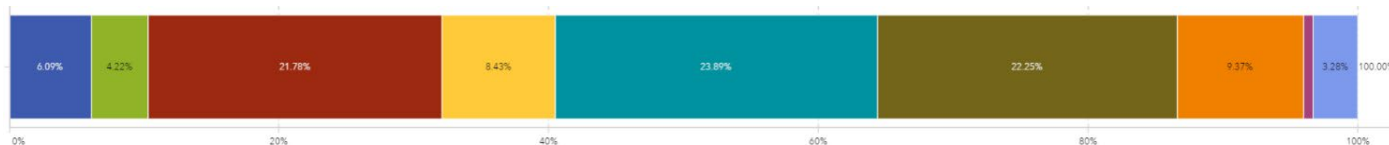


④ 本学で修得・達成できたこと(複数回答)とその中で最も修得・達成できたこと

最も多いのは「幅広い人間関係」であった。次に、「専門的な学問や研究」、「資格取得」、「一般教養」、「将来の目標や夢を実現する力」と続いている。

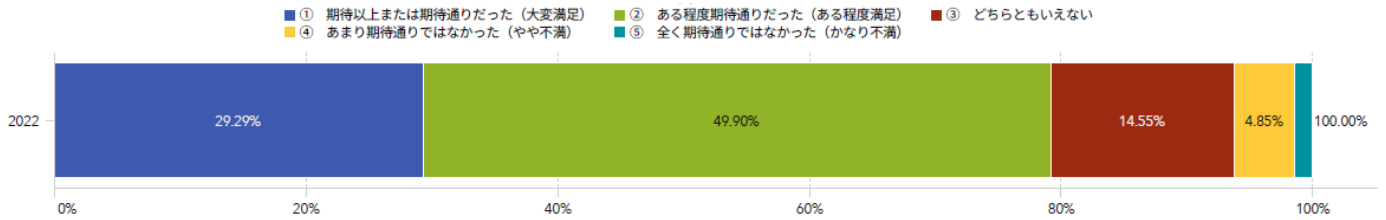


その中で、最も修得・達成出来たことは、「専門的な学問や研究」(23.9%)であり、「資格取得」、「幅広い人間関係」とほぼ同率が続いている。



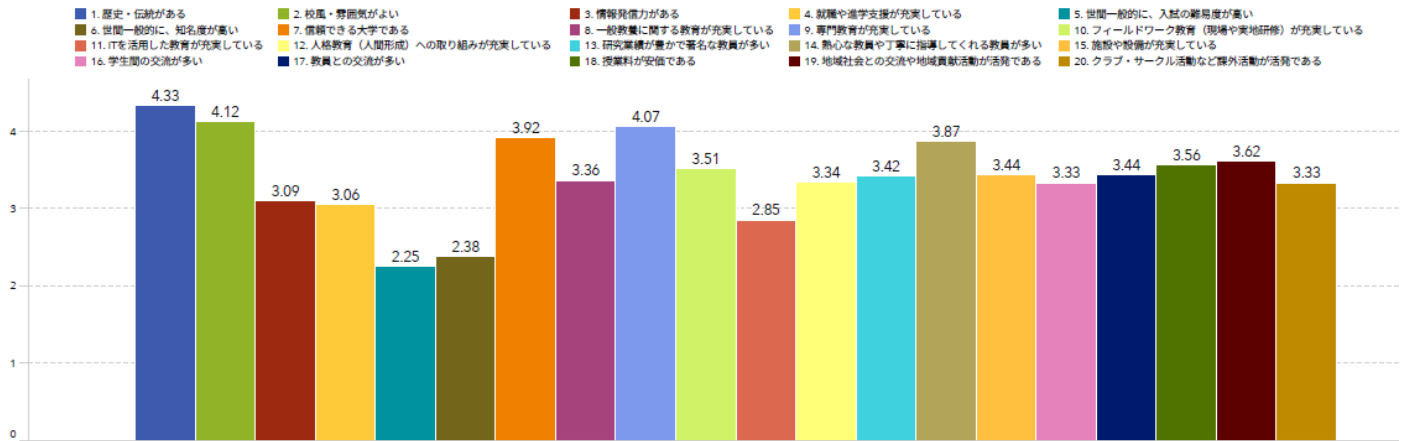
⑤ 入学前の期待と比較した評価

最も多いのは「ある程度期待通りだった」(49.9%)であり、次に、「期待以上または期待通りだった」(29.3%)であり、これらのポジティブな回答の合計の割合は約80%であった。一方で、ネガティブの合計は約6%であった。



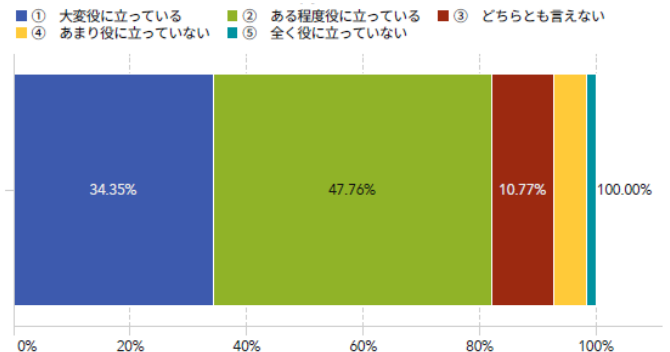
⑥ 本学の教育への所感

最も評価が高いのは「歴史・伝統」であり、次に、「校風・雰囲気」、「専門教育の充実」、「信頼出来る」、「熱心な教員」と続いている。一方で、評価が低いのは、順に「入試難易度」、「知名度」、「IT活用」、「就職支援」、「情報発信力」であった。ただし、図示していないが、年代によって順位は入れ替わるものもある(例えば、「就職支援」は若い年度ほど上位に変わる)。



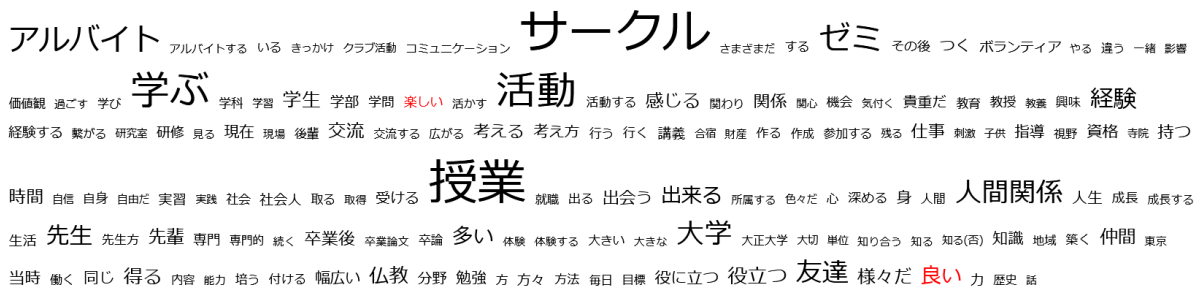
⑦ 学生生活の社会生活での役立ち感

学生生活の卒業後の役立ち感について、最も多いのは「ある程度役立っている」(47.8%)。次に、「大変役立っている」(34%)。一方で、「役立っていない」の合計は約7%。



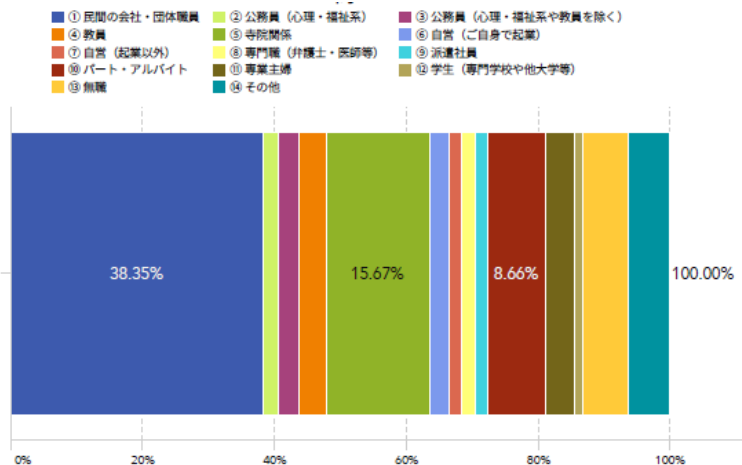
⑧ 本学の学生生活の中で、特に、自分自身の成長に役だったと考えられる経験(自由記述)

自由記述の記載事項を、ワードクラウドによる分析を行った結果、「授業」、「サークル」、「学ぶ」、「ゼミ」、「アルバイト」、「活動」、「友達」、「人間関係」、「先生」等が、多数記載されていることがわかる。



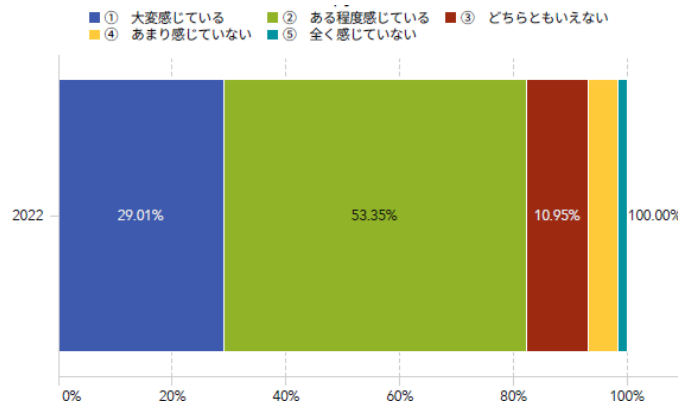
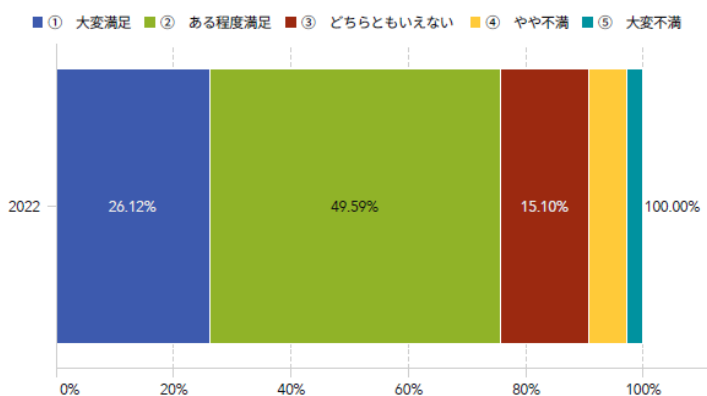
⑨ 現在の仕事の状況

現在の仕事の状況について、最も多いのは、「民間企業等」(38.4%)。次に、「寺院関係」、「パート・アルバイト」、「無職」と続いている。公務員は約5%であり、教員は約4%であった。

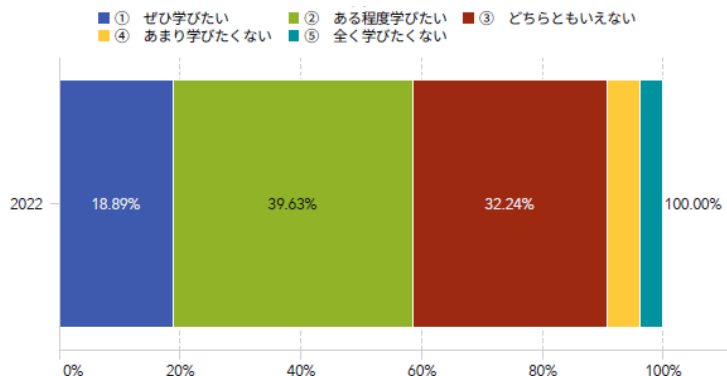


⑩ 卒業後の現在の仕事に対する満足感と今の生活の幸福感

現在の仕事への満足感は、「ある程度満足」(50.0%)、「大変満足」(26.1%)、一方で、不満の合計は約10%であった。今の生活に対する幸福感は、「ある程度感じている」(53.3%)、「大変感じている」(29.0%)。一方で、ネガティブな回答の合計は約7%であった。

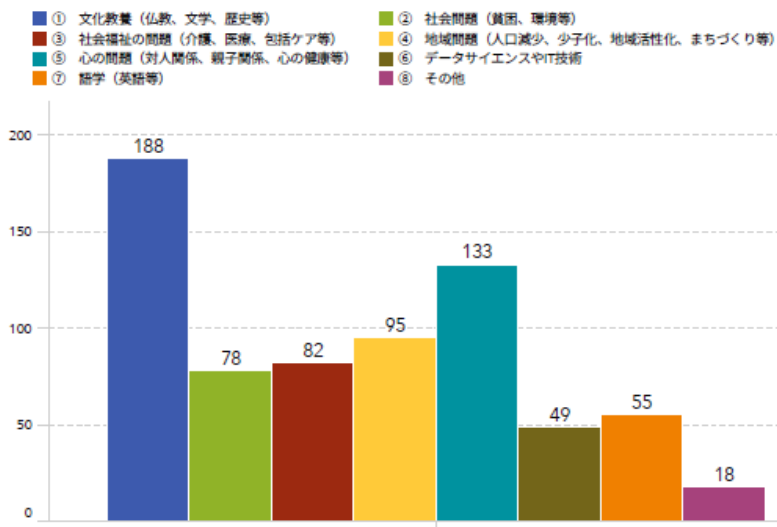
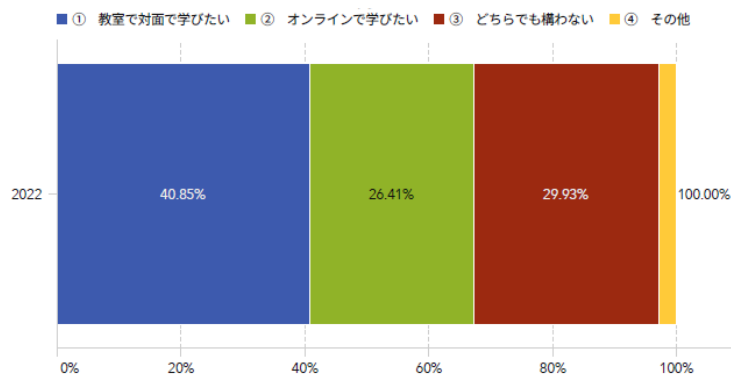


⑪ 本学での学び直しへのニーズ



「ぜひ学びたい」(18.9%)、「ある程度学びたい」(39.6%)と、合計で約6割弱(285人)に、本学での学び直しのニーズがあることがわかった。

学び直しを行う場合に希望する受講形態については、「教室で対面で学びたい」(40.9%)が最も大きい。一方で、「オンライン」と「どちらでも構わない」を合計すると 56.3%であり、オンラインでの受講も一般的となっていることがわかる。



学び直しを行ってみたい内容(複数回答)については、内容は「文化教養」が最も多く、「心の問題」「地域問題」、「社会福祉」、「社会問題」の順に続いている。「データサイエンスや IT 技術」、「語学(英語等)」などのスキルに関する内容よりも、知識やものの考え方に関する内容が期待されていることがわかる。